（様式１・小学校用①）

令和５年度　学　校　評　価　報　告

草加市立清門小学校
（令和６年２月１日作成）

１　学校教育目標

なかよく　（徳）・・・・笑顔であいさつのできる子
かしこく　（知）・・・・進んで学習する子・確かな学力のある子
たくましく（体）・・・・やりとげる子・きたえる子
目指す学校像：「個性輝き　笑顔あふれる清門小」
キャッチフレーズ：「勢い」と「潤い」のある「カラフル」な清門小

２　重点目標・努力目標

（１）　なかよくの具現化
・基本方針
　「いじめはしない、させない、ゆるさない」
・「さわやかなあいさつ」の推進
・豊かな心の育成「道徳教育・人権教育・特別支援教育の充実」
（２）　かしこくの具現化
・幼保小中一貫教育の推進の継続
・草加っ子の学びを支える授業の５か条の定着
・指導方法の改善・学習規律の確立
・読書の励行、学校図書館の十分な活用
・家庭学習の定着
・児童の主体的で深い学びを実現するための授業改善及び「一人一公開授業」の実施

（３）　たくましくの具現化
・体育授業時の運動量の確保
・さわやかタイム
・家庭と連携した「早寝・早起き・朝ごはん」

３　前年度の成果と課題

成果
○定期的に生徒指導部会、教育相談部会、いじめ防止対策委員会を開催し、諸課題の早期発見・早期解決、継続的指導を進めることができた。
○ＩＣＴを活用した学習がスムーズに行える環境を整え、より効果的に様々な学習場面で活用することができた。

課題
●これまでの「幼保小中を一貫した教育」の研究と「自己肯定感・自己有用感を育む授業づくり」を土台として、さらに、学校課題研究を推進していかなければならない。
●教職員の「働き方改革・意識改革」をさらに進め、心身ともに健康な状態で児童によりよい指導ができるようにしていかなければならない。

４　評価表 ※評価基準〔Ａ：十分達成している　Ｂ：おおむね達成している　Ｃ：やや不十分である　Ｄ：不十分である〕

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題　○成果　●課題
Ⅰ　学校運営に関するもの	①組織運営	・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等	A	○全教職員が、学校経営方針を理解し、教育活動にあたっている。 ○学校行事の再開などにも柔軟に対応し、児童の学びを保障している。 ●教職員の共通理解・共通行動をさらに徹底する必要がある。
	②研究・研修	・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成	B	○研修主任を中心に全クラスで学級活動を充実させ、児童の自己肯定感・自己有用感を育む授業研究を進めている。 ●ICTの活用について、教師間に差があることが課題である。
	③保健管理・安全管理	・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用	A	○学校との連携した学校保健委員会等の学校保健活動を、適切に実践している。

	④情報管理・施設設備管理	・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用	A	○キャビネットや書庫が整理されており、個人情報などの文書が適切に保管・管理されている。 ○「個人情報持ち出し簿」が適切に活用されている。 ●児童教職員の安全を第一に、修繕が必要な施設設備について、さらに計画的に修繕を行う必要がある。
	⑤地域との連携 開かれた学校	・学校情報の発信 ・学校公開の実施 ・学校運営協議会の推進 ・地域、校種間連携 ・PTA活動の活性化	A	○学校運営協議会において、学校の諸課題を熟議するとともに、教育活動を参観していただき、ご意見を学校運営に取り入れている。 ○オンラインによるアンケートで、広く保護者の意見を取り入れ、素早く教育活動の改善を行っている。 ●コロナ後のPTA活動の在り方や地域とのつながりについて引き続き検討していく必要がある。
	⑥幼保小中を 一貫した教育	・目指す子ども像の共有 ・１５年間を通じたカリキュラムの編成 ・一貫教育推進のための組織づくり	B	○小中でのあいさつや野鳥観察会等の合同実施や連絡協議会を進めることができた。 ○幼保小で交流を進め、来年度入学する園児に小学校入学に対する意欲を持たせることできた。 ●ICTの活用を進め、相互に負担感のない交流を進めていかなければならない。

（様式１・小学校用②）

草加市立清門小学校

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題　○成果　●課題
Ⅱ　教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	・15年間を通じたカリキュラムの編成、実施 ・教育計画の作成 ・教育活動の評価 ・目標、方針の周知 ・授業時数の配当、確保	A	○コロナ後における教育活動について、児童につけさせたい力を再確認し教育活動を進めることができた。 ●多様な働き方の観点を考慮しつつ持続可能な教育活動にしていかなければならない。
	②教科指導	・指導計画の立案 ・主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 ・評価、評定の工夫 ・外部人材の活用	B	○年間指導計画に沿って、各教科の学習を滞りなく進めることができた。 ○一人ひとりのつまずきや課題の把握に努め、個に応じた支援を充実させた。 ●外部人材の活用を進めるため、さらに地域の協力を得ながら魅力ある授業作りを進めていかなければならない。
	③道徳教育	・全体計画の作成 ・各教科との関連 ・道徳的実践力の育成 ・家庭、地域社会との連携 ・いのちの教育の推進	A	○「全校一斉道徳授業」「友だちの日」「人権週間」「障がい者の日の取組」など、学校全体で道徳教育を推進することができた。 ●各教科・領域、学校行事に道徳教育のねらいを明確にしていくことや「清門小スタンダード」のさらなる定着を進める必要がある。
	④外国語・外国語活動	・指導計画の立案 ・指導方法の工夫と改善 ・評価、評定の工夫 ・各教科、道徳教育との関連 ・中学校との連携	B	○担任とＡＬＴが協力して、児童が主体的に活動する学習を展開している。児童の表現力が向上している。 ●英語だけでなく、世界の国々の文化に関心がもてるような工夫を行ってい
	⑤特別活動	・指導計画の立案 ・学級活動、学級経営 ・学校行事 ・児童会活動	A	○「あいさつ運動」や「子どもまつり」、「縦割り活動」を工夫して実施することで潤いのある学校生活となった。 ○校内研究において全校で「特別活動」に取り組み、教員一人一人の指導力向上を図ることができた。 ●委員会活動やクラブ活動について、さらに児童が意欲的に活動できるよう、内容を見直していく必要がある。
	⑥「総合的な学習の時間」の指導	・指導計画の立案 ・指導内容の充実 ・指導方法の工夫と改善 ・評価の工夫 ・地域の人材・物的資源の活用	B	○ＩＣＴを活用する発表を系統的に指導することで児童の発信力が向上した。 ●他教科との関連等を含め、内容の精選・充実が必要である。

⑦生徒指導	・組織的な生徒指導 ・問題行動への対処 ・教育相談、児童理解 ・いじめ防止対策 ・保護者、地域、諸機関との連携	A	○生徒指導部会では、校内の課題に対して迅速に対応することができている。 ○いじめ防止対策委員会では、外部有識者も交え具体的な協議を行っている。 ○教育相談部会では、報告だけでなく、必要に応じてケース会議を行い、全校で共通した対応を行っている。 ●児童間トラブルを児童が自ら解決できるようにする学校の取組を保護者に伝える必要がある。
⑧キャリア教育	・計画の立案 ・指導内容の充実 ・中学校との連携 ・啓発的経験の充実 ・家庭、地域との連携強化	B	○キャリアパスポートについて、継続して取り組むことで、児童自身が自己の成長を振り返る機会となっている。 ●各教科・領域、特別活動との関連をさらに明確にしていく必要がある。
⑨特別支援教育	・個別の指導計画、支援計画 ・指導方法の工夫と改善 ・通常学級との交流 ・諸機関との連携 ・校内支援体制の整備	A	○通常学級との交流学習や、特別支援学級だより等を通して学校全体に特別支援学級の様子が伝えられている。 ○特別支援学級では、個別の指導計画・支援計画に基づき、個に応じたきめ細かな指導・支援、教育がなされている。 ○特別支援教育コーディネーターを中心に、関係諸機関と連携・協力し、支援体制が充実できた。 ●通常学級に在籍する特別なニーズを要する児童への支援を充実させていく。
⑩学校図書館教育	・指導計画、支援計画の作成 ・図書館補助員の活用 ・諸機関との連携 ・図書館の整備 ・図書館利用の工夫	B	○「学校図書館だより」やブックランチなど、読書や本に親しむための工夫を積極的に行っている。 ○学校図書館の利用を計画し、すべての児童が常に本を手元に置くことができている。 ●学校応援団による読み聞かせを一層充実させ、児童に読書に対する意欲を向上させていく必要がある。
⑪情報教育	・教育計画の作成 ・校内研修の充実 ・ＩＣＴ機器の積極的な活用 ・情報モラル教育の推進	B	○必要な周辺機器を整備し、効果的な学習を行うことができている。 ●児童に対する情報モラル教育、保護者に対する啓発が大きな課題である。 ●ICT 機器の使い方について、校内で研修を深め、働き方改革へつなげていく必要がある。
⑫人権教育	・全体計画の策定 ・各教科との関連 ・人権感覚の育成 ・校内研修の充実	A	○「人権週間」を中心に、全校で人権に関する教育が推進されている。 ○毎年、教職員の校内研修を実施することができている。 ●多様化する人権問題について、その正しい理解と指導の充実を図っていく。

（様式１・小学校用③）

草加市立清門小学校

領域	評価項目	評価の観点	評	成果と課題　○成果　●課題
Ⅲ 特色ある学校づくり	学力向上	・読書タイム （親子読書デー等） ・計算タイム ・国語タイム ・家庭学習チャレンジ週間	B	○読書１００冊達成者には校長が直接表彰を行うなど多くの取組を行っている。 ○家庭学習ノートを掲示することで、どのような家庭学習ができるのか多くの児童がイメージを持つことできた。 ●計算タイムや国語タイムは、児童の実態把握を確実に行い、計画的に実施できるようにしていく必要がある。
	体力向上	・さわやかタイム ・体力向上 レベルアップカード ・持久走の取組 ・サッカー大会 ・相撲教室	A	○体育では、場やルールの工夫などで運動への意欲化を進めることができている。 ○持久走の取組は個々の体力に合わせためあてを設定し行うことができた。 ●児童の体力低下を防ぐために、様々な機会をとらえてさらに運動の機会を設ける必要がある。
	学校応援団	・登下校の見守り ・PTA 活動	B	○各町会、平成塾、関係団体、ＰＴＡと連携・協力した旗振り等を実施し、児童の登下校の安全確保を充実させている。 ●学習支援に関する活動の実施について、検討が必要である。

5　総合評価（学校関係者評価を含む）

・学校評価アンケートにおいて、本校の教育活動は、学校教育目標「なかよく・かしこく・たくましく」に基づいて「進められている」「概ね進められている」と答えた保護者は９６％である。また、開かれた学校づくりに関する項目でも、９７％の保護者が「よく当てはまる」「だいたい当てはまる」と答えている。今後も、学校からの情報発信をさらに充実させ、地域・家庭との連携を深めながら信頼される学校を目指していく。
・「夢や希望を持ち、学び続ける子どもの育成～自己肯定感・自己有用感を育む学級活動の工夫～」をテーマとし、校内研究を実施した。各調査において、その成果が表れてきている。
・定期的に生徒指導部会、教育相談部会、いじめ防止対策委員会を開催し、諸課題の早期発見・早期解決、継続的な指導に努めている。市教育委員会、子育て支援センター等との連携、スクールソーシャルワーカー、さわやか相談員のいじめ防止対策委員会への招致、スクールカウンセラーの積極的な活用など、関係諸機関との連携を推進している。
・様々な機会で児童がＩＣＴを活用した学習が進んできている。教職員もICTの効果的な使用方法について研修を深めている。
・学校行事を精選し児童の学びを充実させることができた。引き続き「安全・安心な学校」のため全教職員で取り組んでいく。

6　次年度の改善策

・全教職員が心身ともに健康で持続可能な教育活動の実施のため、働き方改革を進めて行く必要がある。
・「幼保小中を一貫した教育」の研究を深化させ、地域全体で目指す子ども像を目指すため、次年度以降も「自己肯定感・自己有用感を育む授業づくり」を土台として、学校課題研究を推進していく。
・担当教師により、児童間にICTの習熟の差が出ないよう教職員のICT機器の使用について、組織的に行っていく必要がある。